

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490500184		
法人名	合資会社 三重福祉会		
事業所名	(資) 三重福祉会 グループホームなごみ苑		
所在地	三重県津市豊ヶ丘2-4-5		
自己評価作成日	平成29年1月11日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kihon=true&JigvosvoCd=2490500184-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 29 年 2 月 23 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

団地の中に位置し、公園、スーパー、医院などの施設がそろっている為に、散歩時など地域の方と挨拶を交わしたりする機会が多くあります。夏祭り、防火訓練等、近隣の保育園の行事に参加するなど外部の方との交流に力を入れている。職員も年代的に幅広くそれぞれの考えを尊重しあいチームワークがとれアットホームなグループホームである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設15年目を迎える事業所で、管理者交替・引継ぎによる中で、管理者は利用者の人権尊重、家庭的な支援、自立に向けて見守りを目指し、全職員と常に理念に立ち返り自立支援に取り組んでいる。玄関に入ると広いリビングが目の前に広がり、採光に配慮され非常に明るい。訪問時、昼食後の利用者の皆さんの表情はとても穏やかで、和かに居心地良さそうに感じられた。自治会にも加入しており、地域での災害対策・防犯対策に関しても共に支え合えるよう努めている。自治会や地域との信頼関係、協力体制を積み上げていく事に取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は運営理念の基本を周知し、朝の申し送りで唱和し現実に向けて取り組んでいる。	「人生の半分は自分の為に、後の半分は人の為に」の法人理念と事業所独自の理念を、朝の申し送り時に全職員が唱和しており、日常的に利用者を尊重する気持ちと配慮で実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の行事(夏祭り、防火訓練)へ参加している。苑の周辺を散歩し、日常的に近隣の方へ挨拶を積極的に行っている。	近隣への日常的な散歩中、元職員自宅が有り、立寄ってお茶をよばれたり、近隣の方と挨拶を交わしながら触れ合う機会を持つよう努めている。また、夏祭り等の自治会行事への参加をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々の散歩にて近隣の方と挨拶・会話を行い、理解を活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地区の自治会長、民生委員、介護保険担当職員、北包括支援センターなどの参加で二ヶ月に一回行っている。保健師にノロウイルス対策について伺いました。	会議は2ヶ月に1回開催されており、事業所での取り組みや状況報告、話し合いが双方で意見交流されている。	参加メンバーの構成を広げ、多くの立場の意見・情報を更に取り入れる工夫が望まれる。又、現在の取り組み内容等を地域へ更に発信され、交流を深めて行かれる事を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	当事業所の代表が日頃から市町担当者に出向き、意見交換や相談の助言など行っている。	事業所代表者は、定例の推進会議以外での事業所の実情や取り組みを、市へ出向き担当者に伝え、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみである。夏場の日中は、片側をあげ空気の入れ換えを行っている。現在、身体拘束は行っていない。	身体拘束しないケアへの取り組みは、全職員に意識統一されている。玄関は日中解放、夜間のみ施錠され、安心安全に見守り配慮されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現在までに虐待ゼロ。月一回の職員会議にて確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、対象者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い理解と納得を得た上で契約を結んでいる。解約要請について快く受理している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理を設け、苦情には迅速に対応できるようにしている。玄関に意見箱を設置しているが意見は現在ゼロである。面会時などに家族へ意見や提案がないか聞いている。	家族面会には、管理者・全職員が利用者の日常の様子の伝達や、意見要望等を積極的に伝え、又、聴く努力や場面作りを心掛け実践している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の職員会議にて意見や提案を聞く機会を設けている。またその日の日勤者と管理者とで話し合える機会を設けている。会議等の変更事項、または決まり事は連絡帳に記入し全職員に周知している。	月1回の職員会議には事業所代表者も参加で、意見・提案の活かされる場があり、議事録も全職員が確認出来ている。職員の意見・アイデアに対しても結果報告や記録がされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の意見等を取り入れ、現場に活かすスタッフの向上につなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月一回の職員会議で、経験豊富な職員と共に施設内研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同グループ施設内のイベントへ参加し、職員・利用者が交流できる機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望者には実調に出向き、家族・本人と充分話し合い安心していただき、又、不安を取り除いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実調の時、入苑間近な頃に家族へ再度、要望・不安ごとを確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	支援に必要な事柄を職員間で判断し、適切な対応を出来るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らす姿勢で支援を行い、安心して生活を送っていただけるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	三ヶ月に1回、家族へ季刊誌を送っている。内容に本人の生活状況を記入し、日々の写真一枚を同封している。面会時に家族に伝える等している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と本人と共に馴染みの場所へ出かけたりされる。友達、親戚などの来苑あり。	家族が遠方であったり、仕事の都合で家族と外出の機会は減少しているが、事業所近隣や馴染みの人や場所にも恵まれ、継続的な交流が持たれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルがけではなくソファーなどに座りお話されたり、洗濯たたみ、新聞折などを皆で行い、利用者同士が関わりあえるよう支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所者の状況に応じて本人や家族の希望を考慮し、サービス終了後も相談・支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入苑者に担当職員を配置し、困りごとや楽しみ等の思いを聞き職員間で共有し対応している。	日々の関わりの中や、レクリエーションの時等、言葉や表情からも汲み取り把握に努め、利用者が笑顔になる様に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から馴染みの暮らし方、生活環境などを聞き職員間で共有把握し努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り、日々のチェック表を活かして、またカルテ等の記録で情報共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回の職員会議にて各担当者が記入した、個別処遇申し送り事項を全員で検討している。	毎月の職員会議で個別に担当者の記入事項を確認、反映出来る介護計画を作成している。モニタリングの実施、家族への伝達を含め、一連の流れを全職員で取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテに日常の様子の記録し、ケアプランに活かしている。また、全体の申し送り事項があれば連絡帳へ記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事故・急変時には職員の中に、正・准看護師が二名見えるので看護支援も出来ている。日々の様子を把握し臨機応変に対応している。苑庭にて、きゅうり・ナスを植えたり、芋掘りを行ったりして楽しんでいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域近郊にある保育園との交流が定期的に行われ、地域のイベントへ職員同行で参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診あり。日中、夜間にあれば主治医の支持のもと、他医療機関へ受けられるように支援している。	本人・家族の意向により全員が月2回主治医の往診を受けられ、他科診療についても総合的に医療支援がされている。看護師により、一層安心出来るよう見守り対応されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員の中に看護師が日常的に勤務されていて、他の職員にアドバイスしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医に連絡を取り協力機関につなげてあり、病院関係者と情報交換、相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の家族から終末期の同意書を書いていただいている。当苑で医療、看護、介護が出来ると判断した場合、チーム全体で取り組み引き受けれるようにしている。	本人・家族の意向を尊重し、看取りを行う事を方針としている。法人全体で、職員の喀痰吸引等研修を強化し、知識、技術力向上に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主治医に連絡し適切な指示を仰ぎ、看護師と共に適切な処置をすることが出来る。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災報知機、スプリンクラーの設置あり。避難訓練、年に2回その中の1回は消防士参加のもと指導を頂いている。	年2回の避難訓練実施と共に、自治会の協力や賛同のもと地域での総合的な災害対策に参加している。また、自治会青パトロール巡廻やSOS訓練にも、参加や協力活用に取り組んでいる。備蓄にも万全を期している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを尊重し個人情報の保護や秘密保持には十分に配慮している。羞恥心に配慮しプライドを損なわない支援を行っている。	一人ひとりのプライバシーやプライドには、十分な配慮をし、目立たないさり気ない言葉掛けや対応等、職員の意識統一、周知徹底に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が今したいこと、思っていることを日々の生活の中で話していただけるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活リズムに合せ、希望に沿って支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二ヶ月に一回の訪問理容を利用しその人らしい身だしなみ、おしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に配膳したり後片付けを一緒に行ったり、テーブル拭きなどをお願いしている。誕生日会、季節の行事などで外食へ行ったりしている。	栄養面での管理の整った食材が業者から届くが、利用者の希望を優先した調理メニューを取り入れたり、陶器の食器を使用したりして、美味しく楽しめる食事を目指した支援をしている。楽しみの外食支援にも努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日摂取量を確保できるように心がけ記録を残している。糖尿の方は白米を減らしたりと調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きをすることの一連の動作が出来ない方が多く職員がそばで声掛け支援を行っている。重度の方は介助にて支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握するように表を利用している。リハパン、パットの使用者が殆どでありトイレで排泄を行えるように支援している。	夜間排泄は利用者の安眠を第一に、無理強いの無い支援をしている。トイレのドアは利用者が迷わず使用出来るよう絵のラベルが貼られ、職員のアイデアで自立支援を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や適度の運動を取り組んでおり、一人一人の排便状態を排泄表を使い把握している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2~3回の入浴となっている。温度の設定や湯量も個々に変えている。入浴希望があればその都度対応している。	週2~3回午後からの入浴で、一番風呂好みの希望を順番に叶えられる工夫や、季節に応じた柚子湯、入浴後のドリンク提供等、入浴の楽しみを工夫した支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一階のフロアにてゆったりと生活できるようにソファを設置したり、音楽を流したりとリラックスできるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医や看護師から指示を受け、服薬の容量、投与時間、症状の変化なども記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩など一人一人に合わせ楽しみのある支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日には散歩、ドライブに出かけたり、苑庭にてコーヒーを頂いたり支援している。	お天気や気分に合わせて、苑庭での珈琲タイムでは、外気浴と外での変化を感じて貰える支援をしている。事業所近隣への散歩コースが、見慣れた景色や人との触れ合い、馴染みの場所となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に沿い近郊のスーパーに同行し、品定めからレジ支払いなど見守り支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けるのは当苑でしているが、電話での会話が難しく本人がメモ書きしたものを職員が本人の要望などをつたえている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂ける様にテーブルに花を生けたり、季節の創作物を壁画へ飾ったりしている。共有空間は1フロアで、広いスペースを提供している。	玄関やリビングには季節を感じる花や置物、利用者の創作物、好みの物が飾られ、変化があって生き生きとした居心地の良い空間になっている。日中は人の声、姿が見えて安心出来る共用のリビングである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置き団欒の場を設け、利用者に合わせた席を検討し思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものを持ち込んで頂いたり、本人の創作物を飾ったりと個性のある生活を工夫している。	本人や家族の思い思いの好みの物品が、個性豊かに備えられている。その人らしい生活をしている大切なコーナーである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室が分からない方も見えるためネームプレートを貼っている。トイレの扉にはトイレのマークを書き分かりやすくしている。		